

江東区 中小企業の景況

令和2年度第3・四半期
発行元：江東区地域振興部経済課
調査機関：(一社)東京都信用金庫協会

※詳細はホームページをご覧ください。

【調査の概要】

- 調査時期 令和2年10月～12月期を対象に令和2年12月上旬に実施
- 調査方法 面接聴取法
- 調査の回収状況 有効回収率

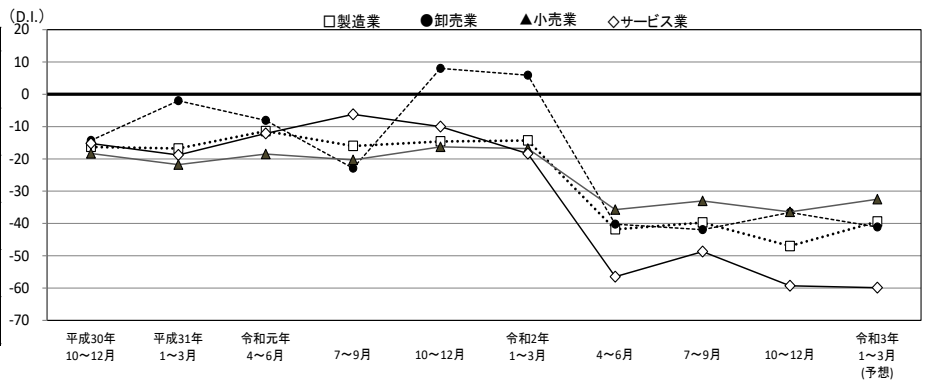
今期は、新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」及び「有効回収率」は把握不能となっております。

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製造業		124
卸売業		25
小売業		50
サービス業		37
総合		236

業況は新型コロナによる極端な悪化から低迷が続いている
～卸売業で厳しさが幾分弱まったが、他の業種すべてで悪化がさらに強まる～
業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-45.6（前期は-39.9）と前期に比べ5.7ポイント悪化傾向が強まった。業種別に見ると、卸売業で厳しさが幾分弱まったが、他の業種すべてで悪化がさらに強まった。
来期は、製造業と小売業で改善がみられるが、サービス業は今期並の厳しさが続き、卸売業は再び厳しが増すと予想している。

●各業種別業況の動き

	前期	今期	増減	来期	
				予想	今期との増減
製造業	-39.7	-47.0	-7.3	-39.4	7.6
卸売業	-41.9	-36.6	5.3	-41.1	-4.5
小売業	-33.0	-36.4	-3.4	-32.5	3.9
サービス業	-48.7	-59.3	-10.6	-59.9	-0.6
総合	-39.9	-45.6	-5.7	-41.3	4.3



●各業種別の今期の特徴と来期の予測

製造業	<p>業況は再び厳しさが大幅に増した。売上額と収益も減少・減益傾向を大きく強めた。価格面では、販売価格は再び下降を強め厳しが増したが、原材料価格は下降に転じて良好感が出てきた。原材料在庫は品薄感が若干強まった。</p> <p>来期の業況は厳しい状況は続くがかなり持ち直すと予想されている。売上額と収益も減少・減益傾向ながらかなり改善すると見ている。販売価格は下降傾向が多少弱まり、原材料価格は良好感がなくなり、わずかに厳しい状況に転じると見込まれている。</p>
卸売業	<p>業況は厳しさが幾分弱まった。売上額と収益も依然として厳しい状況は続くものの減少傾向が多少弱まった。価格面では、販売価格は下降傾向がわずかに強まった。仕入価格は上昇傾向が大幅に弱まり落ち着きを見せた。在庫数量は適正水準が保たれた。</p> <p>来期の業況は悪化傾向が再び強まると予想しているが、売上額と収益は厳しい状況が続くものの、引き続き減少傾向は弱まると見込んでいる。販売価格は下降傾向がかなり改善し、仕入価格は今期同様の落ち着いた水準で推移すると見込まれている。</p>
小売業	<p>業況は厳しさがさらに増し、売上額と収益も減少・減益傾向が大きく強まった。価格面では、販売価格は下降傾向をやや強めたが、仕入価格は上昇から下降に転じて良好感が出てきた。在庫数量は不足感が幾分強まった。</p> <p>来期の業況は厳しさが幾分和らぐと見込んでおり、売上額と収益も減少・減益傾向が多少弱まると見ている。販売価格はわずかに下降傾向を強め、仕入価格は良好感がやや後退すると予想している。</p>
サービス業	<p>業況は厳しさがさらに増した。売上額は減少傾向を強めたが、収益は厳しい状況ながら多少改善した。価格面では、料金価格は下降傾向が多少強まり、材料価格は前期並の良好感が続いた。</p> <p>来期の業況は今期同様の厳しさが続くとして見ているが、売上額と収益はともに減少・減益傾向が非常に弱まると予想している。料金価格は厳しさが幾分和らぎ、材料価格は今期並の良好感で推移すると見込まれている。</p>

特別調査

～「2021年の経営見通しについて」～

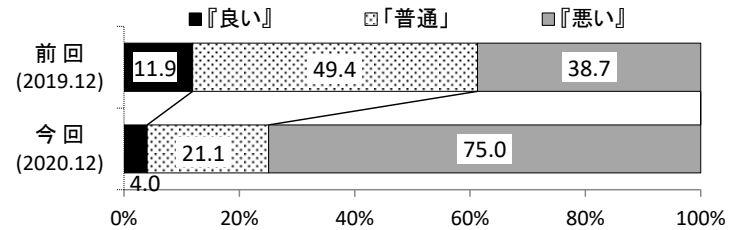
本調査結果の特徴	①2021年の日本の景気見通し	『良い』が4.0%（前年比7.9p減）、『悪い』が75.0%（前年比36.3p増）
	②2021年の自社の業況見通し	『良い』が2.4%（前年比3.9p減）、『悪い』が61.2%（前年比22.6p増）
	③自社の売上額の対前年比	『増加』が8.4%（前年比3.9p減）、『減少』が55.0%（前年比26.0p増）
	④自社の業況が上向く転換点	『短期』29.2%（前年比1.5p減）、『中期』32.0%（前年比13.3p増）、『長期』38.8%（前年比11.7p減）
	⑤地方金融機関に求めること（資金繰り以外の事業計画・戦略等の策定・実行支援として）	「各種補助金・助成金等の活用支援」 45.2% 「ビジネスマッチング・顧客紹介」 23.6% 「各種専門家や専門機関との連携支援」 8.0%

① 2021年の日本の景気見通し

『良い』とした企業は4.0%で、前回調査（11.9%）から7.9ポイント減少した。一方、『悪い』は75.0%で前回調査（38.7%）から36.3ポイント増加した。なお、「普通」は21.1%（前回は49.4%）であった。

業種別に見ると、『良い』とする業種は“小売業”（6.0%）が最も高く、一方、『悪い』とする業種は“不動産業”（90.0%）が最も高い割合であった。

① 日本の景気見通し

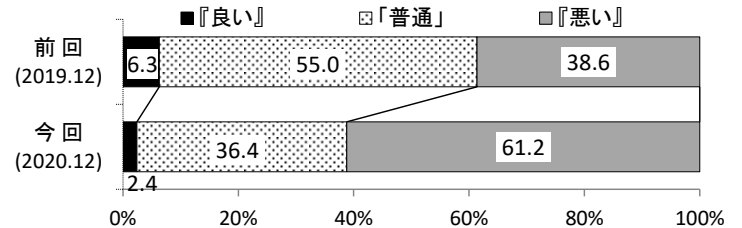


② 2021年の自社の業況見通し

『良い』とした企業は2.4%で、前回調査（6.3%）から3.9ポイント減少した。一方、『悪い』は前回調査（38.6%）から22.6ポイント増加し61.2%であった。なお、「普通」は36.4%（前回は55.0%）であった。

業種別に見ると、『良い』とする業種は、“製造業”が4.1%で最も高く、一方、『悪い』とする業種は“建設業”（83.3%）が最も高い割合であった。

② 自社の業況見通し

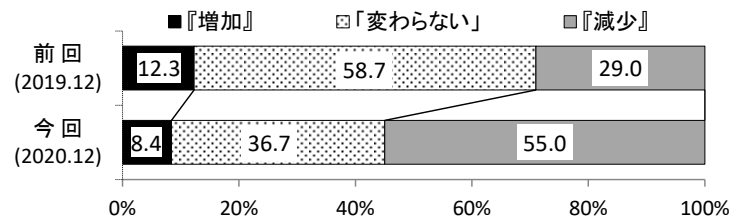


③ 自社の売上額の対前年比

売上の『増加』を予想している企業は8.4%で、前回調査（12.3%）から3.9ポイント減少した。一方、『減少』を予想している企業は55.0%で、前回調査（29.0%）から26.0ポイント増加した。また、「変わらない」は36.7%（前回は58.7%）であった。

業種別に見ると、『増加』を予想する業種は、“建設業”（33.4%）が最も高く、一方、『減少』は“製造業”が56.9%で最も高い割合であった。

③ 自社の売上額の対前年比

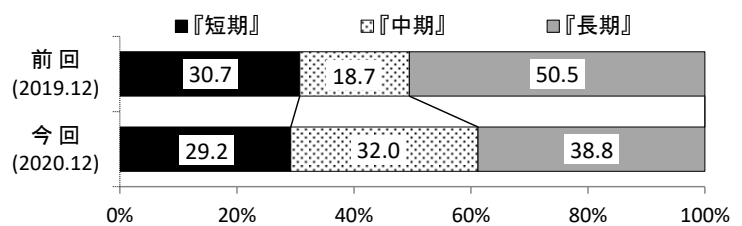


④ 自社の業況が上向く転換点

自社の業況が『短期』で上向くと回答した企業は29.2%となり、前回調査（30.7%）に比べ1.5ポイント減少した。『中期』と回答した企業は32.0%で、前回調査（18.7%）に比べ13.3ポイント増加した。

業種別に見ると、『短期』で上向くと見る業種は、“小売業”（36.7%）が最も高く、逆に、『長期』を予想する企業は、“製造業”（43.1%）が最も高い割合であった。

④ 自社の業況が上向く転換点



⑤ 地域金融機関に求めること（資金繰り以外）

現下のコロナ禍において、資金繰り以外で地域の金融機関に求めることは、「各種補助金・助成金等の活用支援」が45.2%で最も高い割合であった。次いで、「ビジネスマッチング・顧客紹介」（23.6%）、「各種専門家や専門機関との連携支援」（8.0%）、「人材獲得育成・人材派遣の支援」（4.0%）などと続いた。

⑤ 地域金融機関に求めること

